

(c type)を用いて, glucan 産生, glucosyltransferase 活性に及ぼす tween 80 の添加濃度 (0, 0.1, 0.5, 1.0, 1.5, 2.0%) による影響を調べた。

Röllia 培地に 5% に sucrose を加えた場合における, glucan 産生量をみると, adherence insoluble glucan 産生量は, 1.0% でピークに達し, それ以上では減少したが, non adherence insoluble glucan, total insoluble glucan 産生量は, tween 80 の添加量の増加と共に, 増大した。glucan 産生量の測定に, 一般に用いられている 5% 加 Brain Heart Infusion 培地における, glucan 産生量をみると, adherence insoluble glucan 産生量は, 1.5% の時にピークに達し, non adherence insoluble glucan と total insoluble glucan 産生量は, 1.0% でピークに達し, それ以上では減少した。

Glucosyltransferase 活性は, Röllia 培地では, total glucosyltransferase 活性は, tween 80 の添力量の増加と共に高くなり, Brain Heart Infusion 培地では, 1.0% でピークに達し, それ以上では低くなるという傾向がみられた。この傾向は, 各培地における total insoluble glucan 産生量と同じ傾向であった。

Tween 80 の存在で glucan 産生, glucosyltransferase 活性への影響が, 菌体凝集能欠損株においてはどうかは, 目下検討中である。

演題 3 盛岡市における 1 才半児歯科検診の実態

(口腔内所見を中心に)

○松井 由美子, 佐々木 勝忠, 山田 聖弥, 守口 修, 野坂 久美子, 甘利 英一

岩手医科大学歯学部小児歯科学講座

低年齢児のう蝕の激増により 1 才 6 ヶ月歯科健康診査が各市町村で行われるようになってきた。しかし検診は 1 回のみにとどまっておられ, その後のう蝕発生を防止するにはやや懸念がもたれる。今回, 我々はう蝕罹患状態ばかりでなく口腔全般についての検診, それによる早期発見, 予防対策をふまえた指導の System を作った。被検診者は盛岡在住の 1 才 6 ヶ月児で, 男児 212 名, 女児 185 名, 総計 397 名である。検診 System は歯科検診を行い, その結果をもとに各個人に合った刷牙および間食指導を行い, その後 3 才 6 ヶ月まで 3 ヶ月毎に定期診査を続ける方法である。今回は, その

第 1 回目の検診結果について報告する。

検診結果: 異常歯牙の発現頻度は全体的に少なく, 多いものでも癒合歯 4.5%, 矮小歯 2.5% であった。乳歯萌出状態は乳前歯, 第 1 乳臼歯がほとんど萌出し, 歯間空隙の存在は上下顎乳前歯部で 3 才児の $\frac{1}{2}$ と緊密な隣接々触状態であり, 同部位の刷牙指導が重要であると思われた。咬合状態では過蓋咬合が 42.6% 占め, 反対咬合が 22.0% と 3~4 才児の約 4 倍を示した。しかし乳歯咬合完成期で約 70% は自然治癒すると言われているが, 今後の咬合推移の経過観察の必要性を感じた。う蝕罹患状態は, う蝕罹患率 12.6%, 一人平均う蝕数 0.45, う蝕罹患歯率 3.14% を示したが, これらは第 1 乳臼歯が萌出開始した群に初めてみられ, しかもほとんど上顎乳切歯に集中していた。カリオスタットでは pH が低くなるにつれ, 一人平均う蝕率の上昇がみられた。これは今後のう蝕予防対策に多に利用できるものと思われる。以上のことより 1 才 6 ヶ月歯科検診が健全な乳歯列, さらに永久歯列をも育成するためのスタートとして, 1 才 6 ヶ月以後の指導, 定期診査の必要性を痛感した。また, 1 才 6 ヶ月児ではすでに 13% の者がう蝕に罹患しており, 第 1 乳臼歯の萌出する以前の徹底した間食指導, 刷牙指導などが必要であると思われた。

演題 4 盛岡市における 1 才半児歯科検診の実態

(食生活と口腔清掃を中心に)

○山田 聖弥, 松井 由美子, 佐々木 勝忠, 守口 修, 野坂 久美子, 甘利 英一

岩手医科大学歯学部小児歯科学講座

今回, 1 才半児歯科検診と併行してアンケート調査を行い, 主な調査項目とう蝕罹患との関係について検討した。

その結果, 出生歴 (妊娠経過, 出産状況), 生下時体重とう蝕罹患率との間には強い相関はみられなかった。一方, 出生順位, 昼の養育者などの, 子供を取り巻く環境はう蝕罹患に影響を与えており, 中でも養育者に祖母がからんでくるときに高いう蝕罹患率を示した。次に, 現在の口腔清掃に関しては, 歯ブラシ使用者が 53.4% あり, その中で毎日磨くものが 27.5% と少数であった。その上, 回数では 1 日 1 回しか磨かないものが大多数であった。また, それらと罹患率の関係は, 歯ブラシ非使用者や, 使用者でも毎日磨か